

6 東 三 河 地 区

〔 豊橋市、豊川市、蒲郡市、新城市、田原市、設楽町、東栄町、豊根村 〕

【地区の概況】

県土の東部に位置する東三河地区は、完成自動車の取扱拠点で、重要港湾の三河港を擁し、臨海部の工業地帯では、自動車関連産業を中心に製造業が集積しています。また、豊橋市や田原市を中心に全国でも有数の農業地帯となっており、農商工のバランスのとれた産業構造となっています。

当地区では、豊川の流域圏として、社会的・経済的一体性の強い地域で、東三河広域連合などの広域的取組が進められています。また、歴史的に静岡県西部や長野県南部との結びつきが強く、県境を跨いだ三遠南信地域での連携・交流も盛んです。

そうした中、地区全体で既に人口減少がはじまっており、特に北部の山間部では集落の維持が困難な小規模高齢化集落を抱えるなど、過疎化が深刻な状況となっています。リニア中央新幹線開業、三遠南信自動車道全線開通等による新たな人や物の流れが生まれることが期待されます。



項目	数値	県内シェア
人口（2022年）	739,026人	9.9%
面積（2020年）	1,723.47 km ²	33.3%
人口密度	428.8人/km ²	—
農業（2020年）	1,507億円	52.3%
工業（2019年）	45,695億円	9.5%
商業（2015年） ※卸売業を除く	7,655億円	9.0%

1 人口

東三河地区の2020年の人口は748,230人(2010年比97.7%)、県内シェアは9.9%となっています。

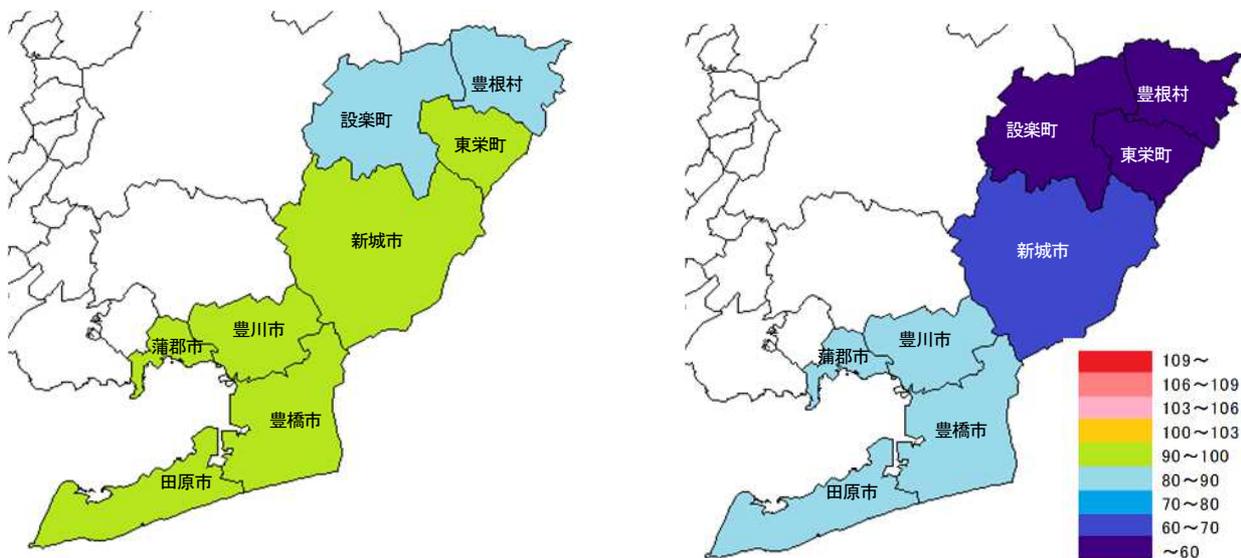
国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2045年の地区内の人口は635,413人(2020年比84.9%)に減少すると見込まれています。市町村別に見ると、全市町村で人口が減少すると見込まれており、豊根村(同年比44.7%)、設楽町(同年比52.0%)、東栄町(同年比53.7%)で減少率が大きくなっています。

また、2045年時点の高齢化率は、2020年比で+8.3ポイントとなっており、県平均(+7.7ポイント)より増加幅が大きく、特に新城市(+11.9ポイント)、豊根村(+9.8ポイント)、田原市(+9.7ポイント)で大きな上昇が見込まれるほか、設楽町、東栄町、豊根村では、高齢化率が55%を超えることが見込まれています。

■総人口の推移

◇2025年(2020年を100とした比較)

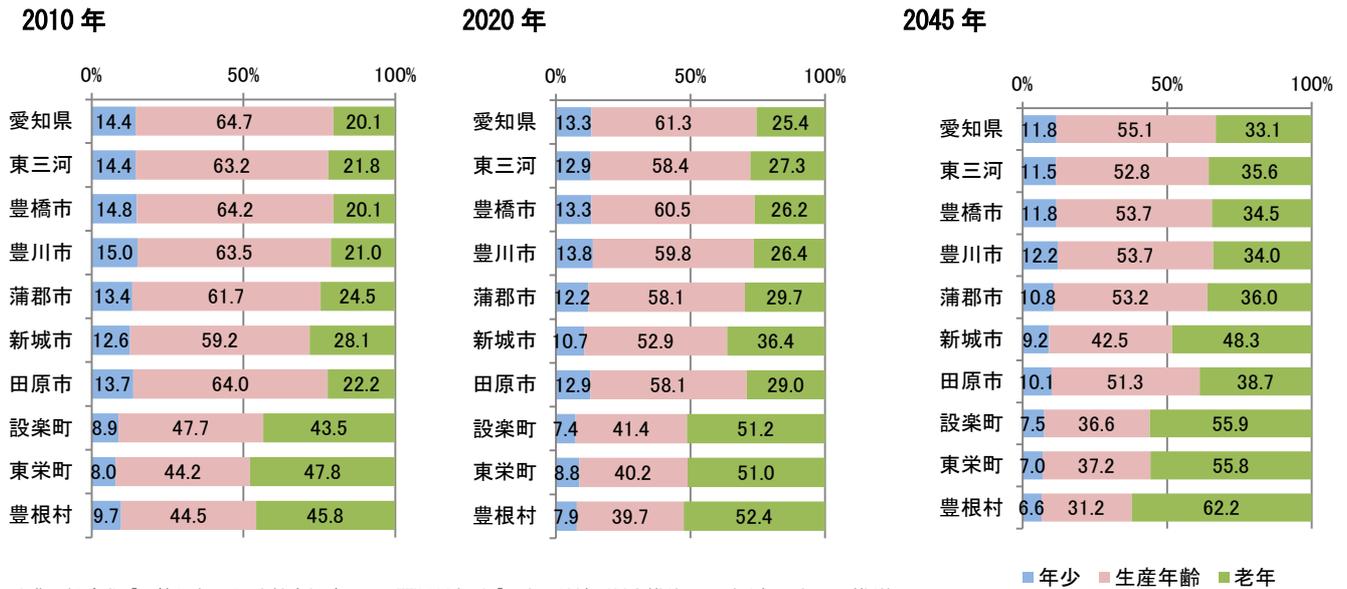
◇2045年(2020年を100とした比較)



	総人口(人)					増減率	
	2010年	2015年	2020年	2025年	2045年	2020年→2025年	2020年→2045年
愛知県	7,410,719	7,483,128	7,542,415	7,455,615	6,899,465	98.8%	91.5%
東三河	765,687	757,453	748,230	729,645	635,413	97.5%	84.9%
豊橋市	376,665	374,765	371,920	365,237	324,226	98.2%	87.2%
豊川市	181,928	182,436	184,661	179,923	163,019	97.4%	88.3%
蒲郡市	82,249	81,100	79,538	77,048	66,179	96.9%	83.2%
新城市	49,864	47,133	44,355	41,592	29,847	93.8%	67.3%
田原市	64,119	62,364	59,360	58,385	47,799	98.4%	80.5%
設楽町	5,769	5,074	4,437	3,941	2,309	88.8%	52.0%
東栄町	3,757	3,446	2,942	2,684	1,579	91.2%	53.7%
豊根村	1,336	1,135	1,017	835	455	82.1%	44.7%

出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年3月推計)」

■年齢三区分別人口割合



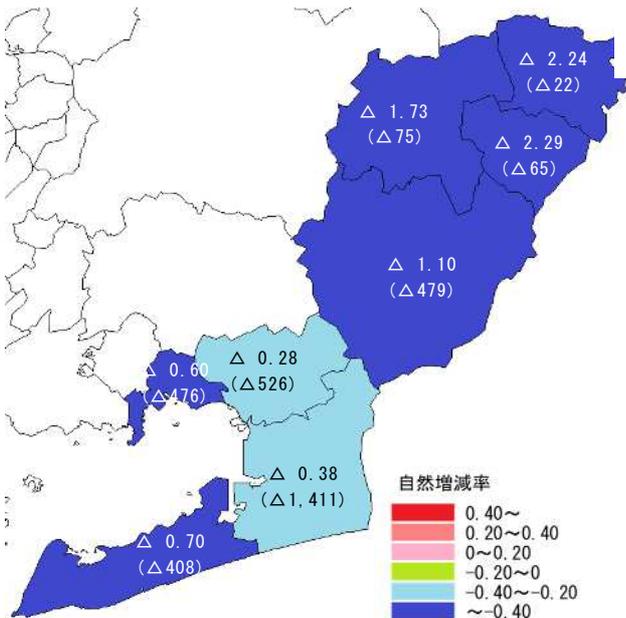
出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年3月推計）」

2 自然増減

東三河地区の2021年の自然増減数は3,462人（-0.47%）の減少となっています。市町村別に見ると、豊根村（-2.24%）、東栄町（-2.29%）、設楽町（-1.73%）で減少幅が大きく、全市町村で減少となっています。

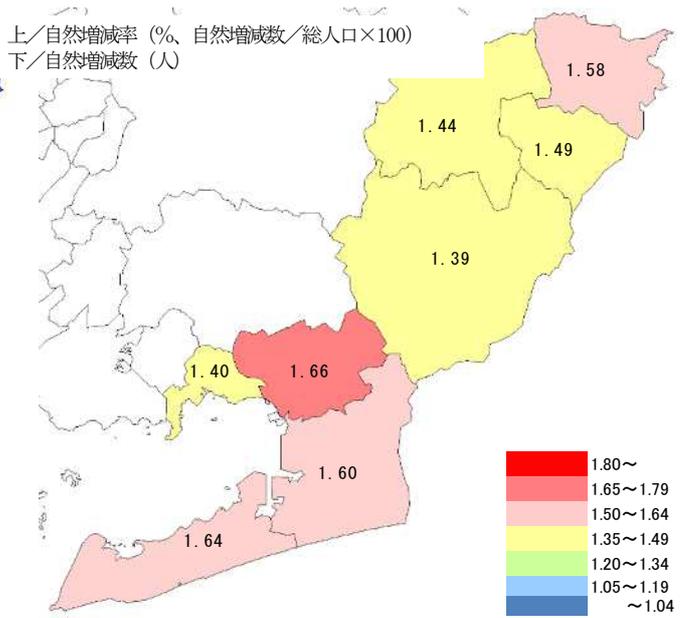
また、合計特殊出生率（2013～2017年）を市町村別に見ると、豊川市（1.66）、田原市（1.64）等で高く、新城市（1.39）、蒲都市（1.40）で低くなっています。

■自然増減の状況（2021年）



出典：厚生労働省「人口動態統計」（2021年）、愛知県「あいちの人口」（2021年）から愛知県政策企画局作成

■合計特殊出生率（2013～2017年）



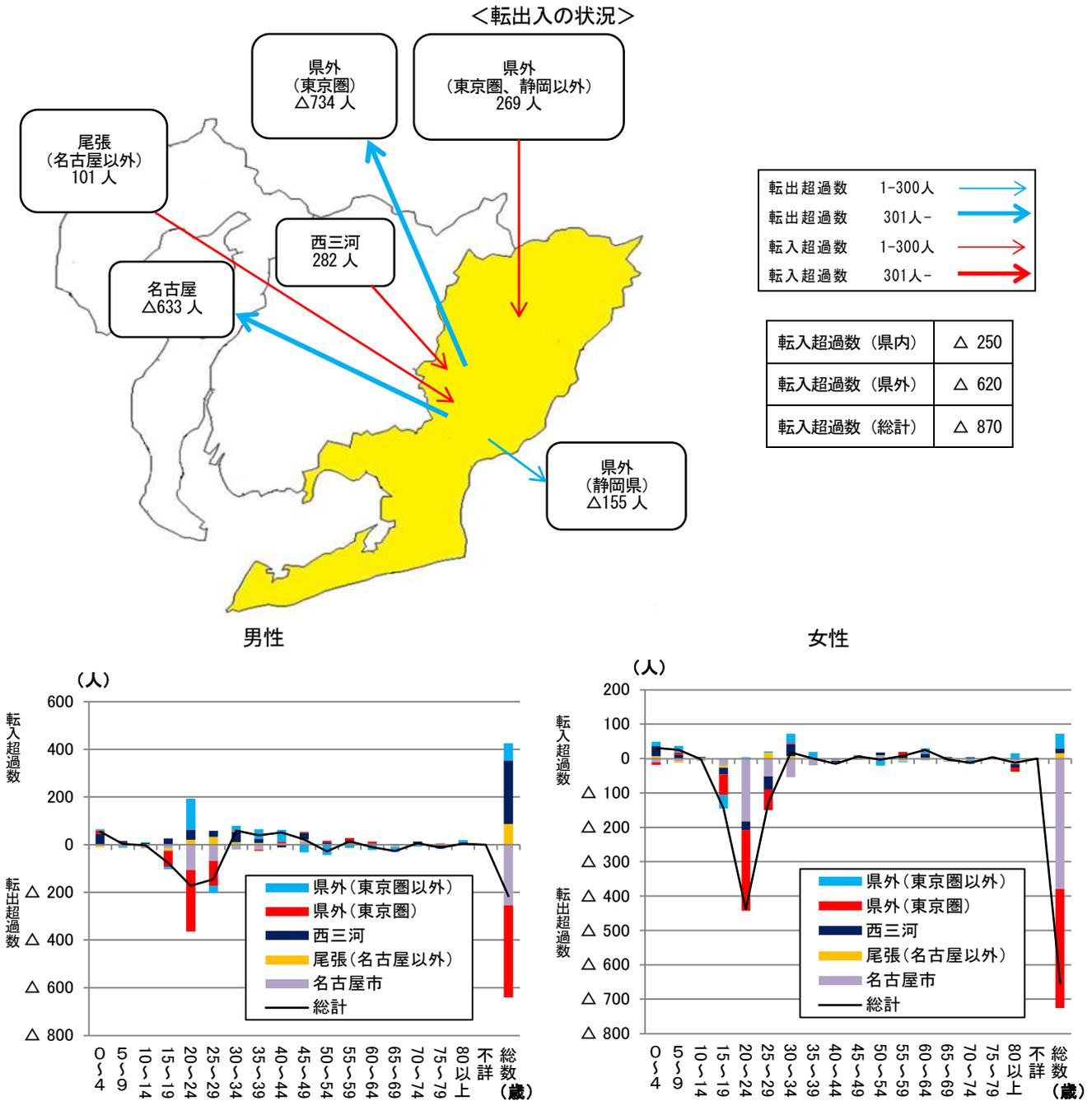
出典：厚生労働省「2013年～2017年人口動態保健所・市区町村別統計の概況」

3 転出入の状況

東三河地区の2021年の転出入は、870人の転出超過となっています。東京圏、名古屋、静岡県に対して転出超過となっている一方、尾張、西三河及び県外（東京圏、静岡県以外）に対して転入超過となっています。

男女別に見ると、男女ともに15～29歳で転出超過となっています。また、男女ともに、東京圏、名古屋市に対して転出超過となっています。

■転出入の状況（2021年）



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」（2021年）

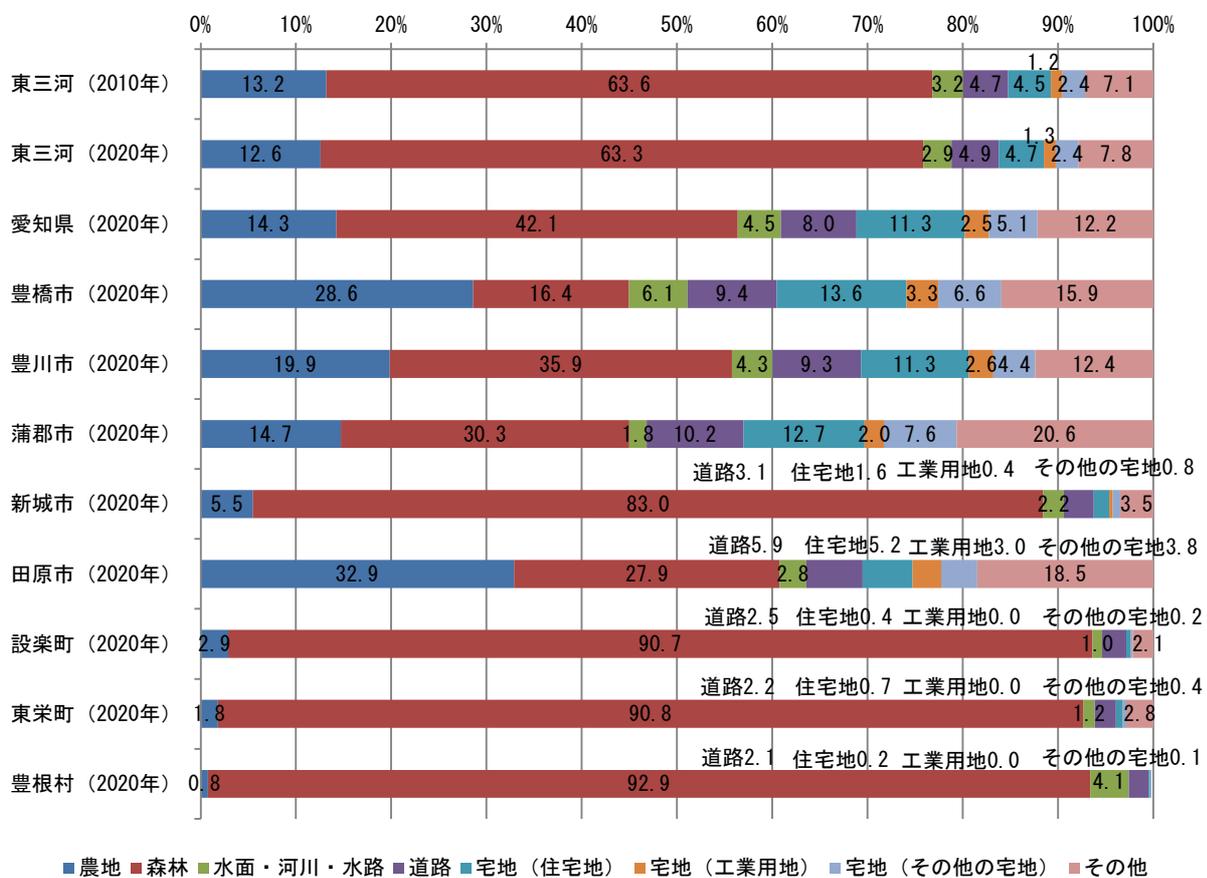
5 土地利用

東三河地区の2020年の地目別土地利用状況を見ると、森林63.3%、農地12.6%、宅地8.4%等となっています。宅地の内訳は、住宅地が4.7%、工業用地が1.3%、その他の宅地（商業・業務用地等）が2.4%となっています。

県全体と比較すると、森林（+21.2ポイント）の割合が高くなっています。また、2020年と比較すると、農地（-0.6ポイント）、森林（-0.3ポイント）が減少する一方で、住宅地（+0.2ポイント）が増加しています。

市町村別に見ると、新城市、設楽町、東栄町、豊根村は、森林の割合が高く80%を超えています。また、田原市、豊橋市は、農地の割合が高くなっています。

■土地利用の現況



※宅地は住宅地、工業用地、その他の宅地の合計。端数処理の関係上、合計が100にならない場合がある。

出典：愛知県「土地に関する統計年報」

6 産業

（1）就業構造

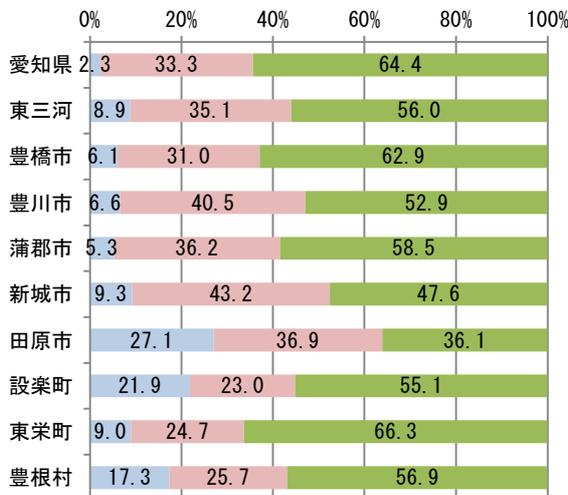
東三河地区の2020年の就業構造を見ると、第1次産業従事者比率が7.5%（県：2.0%）、第2次産業従事者比率が35.5%（県：32.4%）、第3次産業従事者比率が56.9%（県：65.6%）であり、バランスのとれた就業構造となっています。

2010年と比較すると、第1次産業従事者比率（-1.4ポイント）の割合が低下し、第2次産業従事者比率（+0.4ポイント）、第3次産業従事者比率（+0.9ポイント）が微増しています。

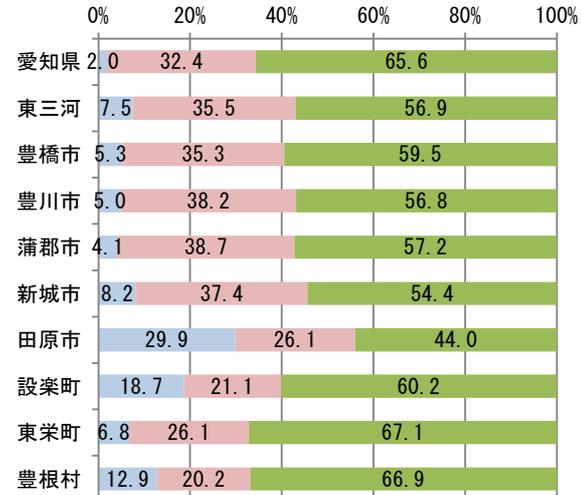
市町村別に見ると、多くの市では、県全体と同様に、第1次、第2次産業従事者比率が低下し、第3次産業従事者比率が増加する傾向が強いですが、田原市では、第2次産業従事者比率が大きく減少（-10.8ポイント）する一方で、地区内市町村では唯一、第1次産業従事者比率が上昇（+2.8ポイント）し、また第3次産業従事者比率も上昇（+7.9ポイント）しています。また、豊根村では、第1次産業従事者比率（-4.4ポイント）、第2次産業従事者比率（-5.5ポイント）がいずれも低下し、第3次産業従事者比率が大きく上昇（+10.0ポイント）しています。

■産業別就業者割合

2010年



2020年



出典：総務省「国勢調査」

■第1次産業比率 ■第2次産業比率 ■第3次産業比率

（2）農林水産業

2020年の農業産出額は1,506.5億円であり、県内シェアは52.1%となっています。当地区は、豊川用水の豊かな水と温暖な気候により、園芸・畜産を主体とする近代的な農業が営まれ、全国屈指の畑作農業地帯を形成しています。農業部門別では、野菜600.6億円、花き352.4億円、豚135.8億円などが多くなっています。

市町村別に見ると、田原市が824.7億円で県全体の産出額の28.5%を占め、県内トップ、全国でも第2位の産出額となっています。

次いで、豊橋市が387.1億円で県全体の産出額の13.4%を占め、県内第2位、全国第13

位の産出額となっています。

林業については、素材生産量（2021年）の県内シェア5割を占めています。

■農業産出額（2020年）

(億円)

	農業産出額	内訳（上位3位）		
		野菜	花き	豚
東三河	1,506.5	600.6	352.4	135.8
豊橋市	387.1	198.8	54.2	29.1
豊川市	148.2	75.4	29.3	10.5
蒲郡市	60.2	41.8	12.0	0.3
新城市	54.8	12.1	10.8	9.6

(億円)

	農業産出額	内訳（上位3位）		
		花き	野菜	乳用牛
田原市	824.7	304.3	299.4	89.3
設楽町	25.6	17.0	3.4	2.4
東栄町	5.0	4.4	0.1	-
豊根村	0.9	0.7	0.1	-

出典：農林水産省「令和2年市町村別農業産出額（推計）
（農林業センサ結果等を活用した市町村別農業産出額の推計結果）」

■農業産出額の上位10市町村（2020年）

	市町村	農業産出額（億円）
1	都城市（宮崎県）	864.6
2	田原市（愛知県）	824.7
3	別海町（北海道）	662.6
4	銚田市（茨城県）	640.0
5	新潟市（新潟県）	569.9
6	旭市（千葉県）	489.0
7	浜松市（静岡県）	471.3
8	那須塩原市（栃木県）	456.5
9	熊本市（熊本県）	451.4
10	弘前市（青森県）	449.7
13	豊橋市（愛知県）	387.1

出典：農林水産省「令和2年市町村別農業産出額（推計）
（農林業センサ結果等を活用した市町村別農業産出額の推計結果）」

■素材生産量（2021年）

	素材生産量 (100m ³)	構成比
愛知県	2,038	
東三河	1,144	56.1%
豊橋市	28	1.4%
豊川市	32	1.6%
蒲郡市	13	0.6%
新城市	161	7.9%
田原市	10	0.5%
設楽町	758	37.2%
東栄町	83	4.1%
豊根村	60	2.9%
他地区	894	43.9%

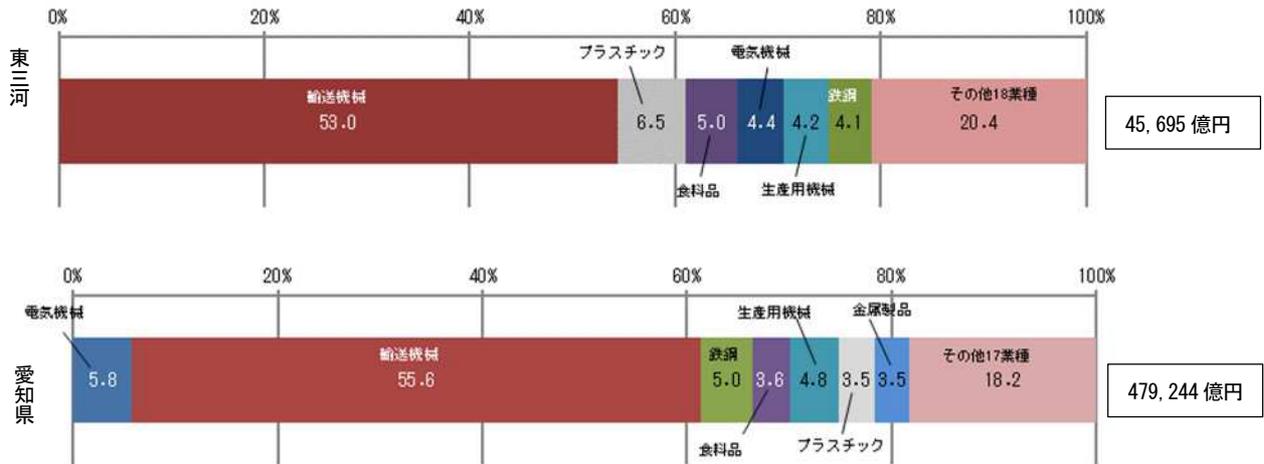
※端数は四捨五入しているため、内訳と計は一致しない。
出典：愛知県「愛知県林業統計書」（2021年）

(3) 製造業

東三河地区の2019年の製造品出荷額等は4兆5,695億円であり、県内シェアは9.5%となっています。産業中分類別の構成比を見ると、輸送機械が53.0%、プラスチックが6.5%、食料品が5.0%などとなっています。

市町村別に見ると、田原市が1兆7,628億円で最も多く、次いで、豊橋市が1兆3,900億円、豊川市が8,220億円となっています。

■製造品出荷額等の産業中分類別構成比（2019年）



出典：経済産業省「工業統計調査」（2020年）

■市町村別製造品出荷額等（2019年）

	製造品出荷額等（億円）	従業者数（人）	事業所数（事業所）
愛知県	479,244	848,565	15,063
東三河	45,695	89,460	1,676
豊橋市	13,900	35,073	715
豊川市	8,220	25,065	472
蒲郡市	2,619	8,039	248
新城市	3,274	7,865	157
田原市	17,628	13,133	67
設楽町	40	171	10
東栄町	14	114	7
豊根村	-	-	-

出典：経済産業省「工業統計調査」（2020年）

（4）商業

東三河地区の2015年の小売業販売額は7,655億円であり、県内シェアは9.0%となっています。また、顧客吸引力指数※は0.90となっています。

市町村別に見ると、小売業販売額は、豊橋市が3,909億円、次いで豊川市が1,847億円と高くなっています。また、顧客吸引力指数が1.00を超えている市町村はありません。

■小売業販売額（2015年）

	（億円）	
	小売業販売額	顧客吸引力指数
東三河	7,655	0.90
豊川市	1,847	0.89
蒲郡市	849	0.93
豊橋市	3,909	0.93
田原市	654	0.94
新城市	375	0.71
設楽町	22	0.39
東栄町	-	-
豊根村	-	-

※顧客吸引力指数：各市町村の人口1人当たりの小売業販売額を県の1人当たりの小売業販売額で除したものの、指数が1.00以上の場合は、買物客を外部から引き付け、1.00未満の場合は、外部に流出していることを示す。

出典：経済産業省「商業統計」（2016年）、愛知県「あいちの人口」（2016年）から愛知県政策企画局作成

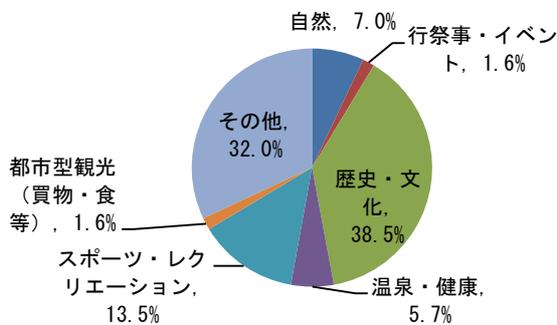
7 観光

東三河地区の2021年の観光資源利用者数を区分別に見ると、「歴史・文化」が38.5%で最も割合が多く、次いで道の駅などが含まれる「その他」が32.0%、「スポーツ・レクリエーション」が13.5%となっています。利用者数上位の観光資源は、豊川稲荷（年間3,420,424人：豊川市）、道の駅とよはし（年間2,213,084人：豊橋市）、もつくる新城（年間1,124,830人：新城市）などとなっています。

また、当地区は、花祭、三河の田楽などの多彩な祭り・民俗芸能や、渥美半島周辺の景観、山間部の茶臼山、鳳来寺山などの山々をはじめ多様な観光資源を有しています。

■観光レクリエーション利用者統計（2021年）

＜施設等区分*別利用者数の割合＞



※観光庁「観光入込客統計に関する共通基準」と同様の区分

＜観光資源（利用者数上位10位）＞ (人)

順位	観光資源名	市町村	利用者数
1	豊川稲荷	豊川市	3,420,424
2	道の駅とよはし	豊橋市	2,213,084
3	もつくる新城	新城市	1,124,830
4	豊橋総合動植物公園	豊橋市	935,392
5	めっくんはうす	田原市	910,017
6	東三河ふるさと公園	豊川市	397,951
7	赤塚山公園(ぎょぎょランド)	豊川市	349,781
8	あかばねロコステーション	田原市	324,921
9	サンテパークたはら	田原市	314,550
10	愛知県民の森	新城市	314,492

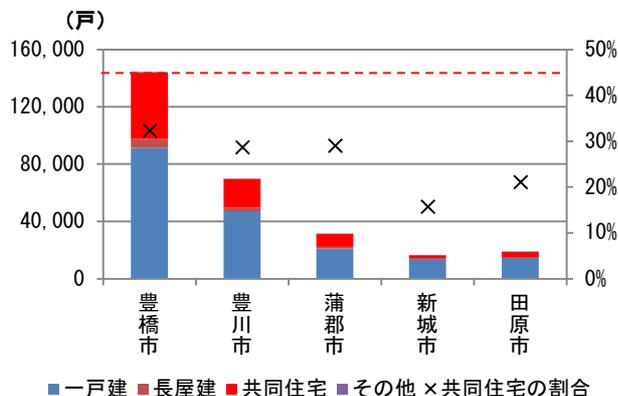
出典：愛知県「観光レクリエーション利用者統計」（2021年）

8 住宅

東三河地区の2018年の住宅総数（居住世帯なしの住宅を除く）を市町村別（人口15,000人未満の町村を除く）に見ると、豊橋市が144,160戸で最も多く、次いで豊川市が69,610戸、蒲郡市が31,360戸となっています。また、共同住宅の住宅総数に占める割合は、地区内全市で県平均（45.8%）を下回っています。

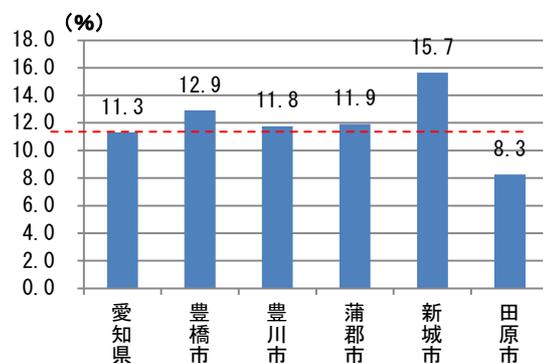
空き家率を見ると、新城市（15.7%）、豊橋市（12.9%）などで県平均（11.3%）を上回っています。

■住宅総数（2018年）



※赤線は共同住宅の割合の県平均（45.8%）

■空き家率（2018年）



※赤線は空き家率の県平均（11.3%）

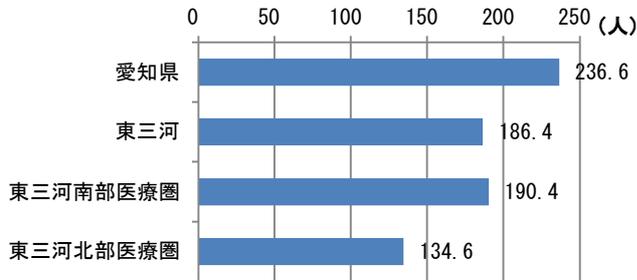
※住宅・土地統計調査では、人口15,000人未満の町・村の調査結果が公表されていない。

出典：総務省「住宅・土地統計調査」（2018年）

9 医療・福祉

東三河地区の2020年の人口10万人当たりの医師数は186.4人であり、県平均（236.6人）を下回っています。二次医療圏別に見ると、東三河南部医療圏190.4人、東三河北部医療圏134.6人であり、東三河北部医療圏では、県平均を大きく下回っています。

■人口10万人当たり医師数（2020年）

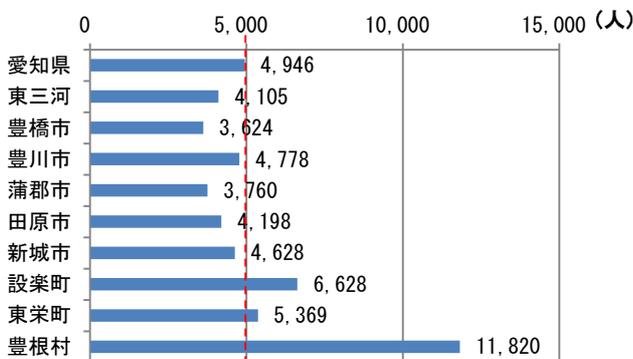


出典：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師統計」（2020年）、総務省「国勢調査」（2020年）から愛知県政策企画局作成

高齢者向け施設について、2020年の65歳以上人口10万人当たりの定員数は4,105人となっており、県平均（4,946人）を下回っています。市町村別に見ると、豊根村、設楽町で県平均を大きく上回る一方、豊橋市、蒲郡市で大きく下回っています。

また、2022年の保育所の定員充足率（利用児童数÷定員）は81.8%となっており、県平均（82.0%）をわずかに下回っています。

■高齢者向け施設定員数（65歳以上人口10万人当たり）（2020年）

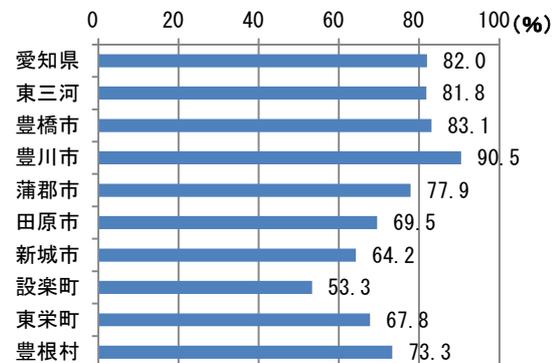


※赤線は県平均（4,946人/10万人）

※高齢者向け施設定員数：養護老人ホーム（一般）、（盲）、軽費老人ホーム（A型）、（B型）、（ケアハウス）、有料老人ホーム、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護療養型医療施設の定員数

出典：厚生労働省「保育所等利用待機児童数調査」（2022年）、「社会福祉施設等調査」（2020年）、「介護サービス施設・事業所調査」（2020年）、総務省「国勢調査」（2020年）から愛知県政策企画局作成

■保育所充足率（2022年）



【東三河地区における県の主な取組】

当地区は、農工商のバランスのとれた産業構造を有し、豊かな自然や様々な歴史・伝統・文化など多くの地域資源を有している一方、人口減少と高齢化が県全体に先行しています。県では、2012年4月に「東三河県庁」を設置し、市町村や経済団体、大学等との連携を深め、一体となった地域づくりを進めているところであり、次世代産業や農林水産業をはじめとした多様な産業・雇用の創出、豊かな地域資源を生かした魅力の創造・発信、山間地域の暮らしを支える環境整備や移住・定住の促進などに取り組んでいます。

（多様な産業・雇用の創出）

スタートアップ・エコシステムの形成に向けて、当地区の産学官で設立された「東三河スタートアップ推進協議会」を STATION Ai パートナー拠点に位置づけ、スタートアップの創出・育成に係る取組支援を進めるとともに、東三河地域の産業支援機関である（株）サイエンス・クリエイトをはじめとした産学官連携や異業種連携、企業のDXや新産業創出の支援による産業イノベーションの促進を図っています。

農林水産業では、東三河農業研究所におけるスマート農業の研究開発と現地での普及拡大により、農業の生産力の向上を図るとともに、食農産業クラスター推進協議会、道の駅を核とした商工連携による付加価値を高める新商品開発や6次産業化の促進、地域内外へのPR等による食のブランド化の推進を進めています。林業においては、「あいち森と緑づくり税」を活用した人工林の間伐や里山林の整備を推進するとともに、県産木材の利用促進を進めています。水産業においては、干潟・浅場の造成、魚礁漁場の整備や栽培漁業センターにおける種苗生産などによる水産資源の維持・増大の取組や、就業希望者への相談対応などによる担い手の育成・確保を推進しています。



「食農産業クラスター推進協議会」による植物工場等の推進



あいち森と緑づくり事業による人工林の間伐地

（地域の魅力の創造・発信）

「食」・「花」・「炎」・「スポーツ」・「美・癒し」・「歴史」の6つの重点資源の磨き上げによるブランド構築と、体験型観光などの仕組みづくりを推進するとともに、「東三河広域観光協議会」や「奥三河観光協議会（DMO）」を中心とした、デジタル技術の活用やマーケティング戦略による、多様な観光資源を活かしたプロモーションに取り組んでいます。また、「新城ラリー」や「奥三河パワートレイル」の開催・支援をしているほか、豊かな自然を活かしたアウトドアスポーツによる「東三河スポーツツーリズム」の推進と魅力発信に取り組んでいます。



花祭の保存・伝承の取組推進



新城ラリーの開催支援

（環境の保全・再生、再生可能エネルギーの活用・普及）

自然と調和した地域に向け、三河湾の環境再生、間伐等による森林・里山林の整備、都市緑化など、山間地域から三河湾までの自然環境の保全・再生を推進しています。また、渥美半島におけるメガソーラー事業の推進などといった、地域の特性を活かした再生可能エネルギーの一層の導入促進を図っています。

（山間地域の暮らしを支える環境の整備、関係人口の創出、移住・定住の促進）

東三河地域では、県内の他地域に先行して人口減少がはじまっており、北部の山間地域では、高齢化率が特に高い状況にあります。こうした中で、へき地医療拠点病院、へき地診療所の整備・運営への助成など、地域医療の充実を図るとともに、バス路線の維持や山間道路の整備などの生活交通の確保、携帯電話の不通話地域の解消を図っています。

また、ワーケーションの促進・誘致のための実証実験や、「愛知県交流居住センター」における都市部の住民とのマッチング、情報発信、仕事（なりわい）づくりの支援を行うことにより、都市部在住者の関係人口の創出・拡大、移住・定住に向けた環境整備の推進に取り組んでいます。



愛知県交流居住センター（ホームページ）



愛に行こう！愛知県移住・定住相談センター
（東京都千代田区有楽町）

（産業や暮らしを支える基盤整備）

新東名高速道路や東名高速道路と直結する三遠南信自動車道については、奥三河の山間地域から都市部へのアクセス性を向上させ、災害時には緊急輸送道路となることから、鳳来峡IC～東栄IC間の2025年度の開通に向けた整備促進を働きかけています。また、名豊道路の整備促進や、浜松湖西豊橋道路の早期事業化に向けた取組を推進しています。

さらに、豊橋市からの「東三河1時間交通圏」の基軸となる国道151号、257号、259号、420号、473号、主要地方道長篠東栄線、豊橋渥美線や、交通の円滑化を図り、地域の主要渋滞箇所の解消を目的とする主要地方道東三河環状線などの整備を進めています。

国際的な自動車流通港湾である三河港においては、完成自動車などの取扱貨物の増大や船舶の大型化に対応するため、ふ頭用地や岸壁の整備を進めることで機能強化を図っています。また、ポートセールスなどを実施し、さらなる利用促進に取り組んでいます。



国道23号 蒲郡バイパス



三遠南信自動車道
鳳来峡ICイメージパース

（広域連携の推進）

東三河地域の地方機関で構成する「東三河県庁」において、県の施策の総合調整を図るとともに、市町村・経済団体等との連携強化、広域的取組の加速化等に取り組み、東三河地域の振興を図っています。

「東三河振興ビジョン2030」を策定するとともに、東三河の重要課題について、同ビジョンに基づき「重点プロジェクト」を設定し、地域と「連携・協働」して取組を推進しています。

また、2015年1月に設立された「東三河広域連合」について、共同処理事務や広域連携事業等が円滑に進むよう、支援を図っています。

さらに、県境を越えた広域連携の先進的モデルともなっている三遠南信連携について、三遠南信地域の産学行政等で策定された第2次三遠南信地域連携ビジョンの推進を図り、行政や経済、学術、住民活動など、様々な分野における交流連携を深めています。